

平成28年度 第3回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 若い世代から見る川越 ～



日時：平成28年10月12日（水）

午後6時30分～8時00分

場所：川越市やまぶき会館

参加者

川越市在住又は在勤で様々な職域に従事されている若者の皆様 9名

出席者

市長、栗原副市長、板東副市長、市民部長、産業観光部長

意見数

分 類	件数	内 容	頁
福祉・保健・医療	1	・犬のふん対策	3
教育・文化・スポーツ	1	・ウェスタ川越の活用	8
都市基盤・生活基盤	9	・市道 6515 線の拡張工事	2
		・市道 5329 号線の補修	3
		・川越駅西口の交通量	4
		・川越駅西口の通勤・通学バス乗り場	5
		・川越駅西口の一般乗降場	5
		・川越駅西口の観光バス乗降場	6
		・川越駅西口の整備構想	8
		・区画整理	9
		・川越シャトル	16
産 業 ・ 観 光	5	・野菜泥棒対策	3
		・農業の継続	10
		・特産物の販売	11
		・ものづくりをしている会社	14
		・外国人観光客	17

地域社会・市民生活	1	・街灯	15
計	17		

意見交換（要約）

《市道 6515 号線の拡張工事》

意見 意見交換というより要望に近いのですが、市道 6515 号線では拡張工事が進められています。土地の買収自体は既に終了しており、工事自体は 5 年に 1 回程度にまとめて行っている様子が確認できています。これを毎年 10 メートルずつ工事を行うなど、少しずつでも良いので、進捗がわかるような工事の進め方にしていいただければと思います。そうであれば、あと何年で自分の家の前まで整備されるといっためどがつきやすく、今後の営農に関する計画などを立てることが容易になるのでありがたいのですが、いかがでしょうか。

市民部長 本件につきまして、担当部署では短いスパンで事業を実施するのはあまり効率がよくないため、ある程度まとめて工事をしていきたいとのことでした。本工事につきましては、周辺の要望道路の整備状況と併せ、計画的に工事を進めていきたいということです。

市長 例えば 500 メートルなら 500 メートルを一遍に、1 年で工事をしてしまうのが一番効率的です。しかしながら、何百メートルという距離になると費用的な問題があり、市内のいろいろなところでの様々なご要望に応じていくために、ぎりぎり経費がかからないぐらいの 100 メートルとか 200 メートルぐらいのスパンで分割的に実施していく方法で通常行っています。

ですから、例えば 10 メートルとか 20 メートルぐらいずつ毎年やっていけば、じわじわとあと何年で来るな、というのがわかるというのは、よくわかるのですけれども、

長さ 10 メートルで道路工事をやると、その年度にいろいろな経費がかかってしまい、全体としてはすごく経費がかさんで高くなってしまうということもございまして、100 メートルないし 200 メートルのスパンでやっていくという形をとらざるを得ないということをご理解いただきたいと思います。

《市道 5329 号線の補修》

意見 要望でございます。市道 5329 号線は、老朽化により道の両端が崩れており、幅が減少しております。このままでは農機どころか乗用車も出せなくなってしまう可能性があるのもので、何とか対応していただけたらと思います。

市民部長 御指摘の場所是一部路肩が破損し、舗装幅員が非常に狭くなっているという状況です。こちらについては、担当部署に補修材を用いて緊急的に補修を行うということを確認をしております。

《野菜泥棒対策》

意見 野菜などを露地で栽培していると、野菜泥棒や資材泥棒に遭うことがたびたびあります。こういった行為に対して、市として対応策等を講じることは可能でしょうか。

市長 泥棒について、基本的には対応するのは警察ということになりますが、警察の話では、しっかり書面で被害をまとめて出してくれば、捜査して対応しますということでございます。それを防ぐとか、そういう手だてをどうするかというのはなかなか難しい問題だと思います。やはりマナーアップというか、そういうようなことをやっていかなければならないのかなというところで、あとは自衛をしていただくということになってしまいます。

《犬のふん対策》

意見 よく畑の横の道などをペットの散歩ルートにしている方がいらっしゃいますが、そういう方々の中にはペットのふんをそのまま畑などに放置されている方がいらっしゃいます。こういった行為に対して、市からマナーアップのための活動等はしていただけるのでしょうか。

市長 犬のふんの問題については、保健所から注意喚起の看板を立てるということはしておりますので、こういうところにふんが多い、というようなことを指摘していた

できれば、看板を立てるという形でマナーアップの注意喚起をしていくということはいたいします。

市民部長 保健所の食品・環境衛生課には自分で取りつけていただくマナーアップの看板が用意しており、個人名で申請をされると2枚、自治会名で申請されると6枚まで、もらうことができます。

また、マナーアップについては農地の問題だけではなく、自治会連合会でも自治会だよりなどで取り組んでいこうというお話を聞きました。市だけでなく、いろいろなところでマナーアップについて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

《川越駅西口の交通量》

意見 まだ引っ越して半年で、私は川越駅の西口方面に住んでいるのですが、川越の駅の周辺、駅から西口のロータリーのところから真っすぐ狭山方面に行く道路（市道10号線、60号線）や国道16号などですが、非常に自動車の交通量が多いと感じています。特に雨の日などは、もう渋滞でなかなか動かないというところがありますね。

うちの会社は通勤バスも西口のバス乗り場のところを利用していますので、結構そういうところで、非常に交通量が多いという印象を真っ先に受けているということがあります。16号という大きい国道が通っていますし、その抜け道などいろいろな話を聞くとあるのですけれども、全体の車の量と道路の量のバランスがちょっと悪いのかなというのがあるので、その辺どうなのかなという期待があって聞きました。

市長 西口は、割と道路を広くした部分が多くなっているのですけれども、まだまだ昔のままの狭い道路が多くてですね、やはりどうしても車の量に比べて道路が狭いというので渋滞が起きがちです。特に、「旧市街」と呼んでいるのですけれども、まちなかについては城下町だったということもあって、クランクになっていたり、狭い道ばかりだったりして、交通渋滞を何とかしてくださいというご意見は常々いただいているのですが、なかなか対応しきれていない部分がございます。

ただ、少しずつではありますが、渋滞緩和のために拡幅できるところは拡幅する、あるいは右折帯が設けられるところは右折帯を設ける等のやり方で進めています。市民の皆さんの目から見ると、もう少しスピードアップできるのではないかというようなご意見もあるのですけれども、こちらとしてはいろいろな事情、例えば予算であるとか土地を買収するにはそれなりの手間隙がかかるとか、そういう理由があって、

あまりスピード感を持ってできないというのが実情でございます。

《川越駅西口の通勤・通学バス乗り場》

意見 よく通勤バスというのがあるのですけれども、川越は通勤バスとか通学バスが多くて、それはすごくいいなと思っています。多分西口は開発とかあると思うのですが、是非乗り場を作っていただけるよう、お願いしたいと思います。

市長 通勤・通学バスについて、西口あたりは一日何百台も出ています。そのようなバスが停まっていることが渋滞の原因になるとか、バスの排気ガスを何とかしてくださいよ、などというご意見もあるので、今、西口の市有地の利活用を考える中で、乗り場を一部取り込むということとか、違う場所にバスの発着場を設けることも考えています。

それでも多分、道路で乗り降りするという通勤・通学バスがまだまだ残ってしまうということは予想されます。確かに駅に近くて道路で乗り降りできれば、利用される方にとってはとても便利ですが、それがさっき言ったように渋滞の原因になっているとか、そういうこともありますので、一定程度時間をかけて整理をしていかなければならないと思っています。

《川越駅西口の一般車乗降場》

意見 川越駅西口を再開発していただけてきれいになって、市民としてうれしく思っているんです。かつ、車と人間を分けるというその方向性も間違いではないと思っていますし、安全になったなと思っています。タクシーの運転手さんも、これはすごいいいんだよというふうに言ってくれて、ああそうなんだなと思って。

ただ、1点だけ思うのが、車でアクセスするときに一般車乗降場のように乗り降りできるエリアもあるので、車が多いのかもしれないと感じるんですね。それで、あそこの近くにマクドナルドがあって、カーブになっているところに車が停められないようにプラスチックのクッションドラムがあります。これが無いと長時間駐車されるなどして困るということでおつくりになっていると思うんですけれども、もしかしたら、もう少しフレンドリーにして、お互い譲り合いたい、そんなに長時間は停めないし、マナーも守るけれども、みたいな感じで、少し停めるということが出来たら、と思います。雨の日など、あの辺りには塾が多くて車が結構停まっているのですが、お子さんを塾に連れて行く、そういうときなどにも、もう少しフレンドリーに

していただけるといいかなというふうに、市民目線で思ったりしています。

市長 赤白のあれですね。

意見 例えば、ああいうところに少しだけでも利用するみたいなものが出来れば。なぜかという、いろいろな選択肢で使えるような使い勝手だと良いのかなという意見なんです。

市民部長 ありがとうございます。

《川越駅西口の観光バス乗降場》

意見 今、交通関係の話が出たのでその件で。私が旅行会社勤務だからという関係も少しあるかもしれないのですが、西口に観光バス乗降場という形で、バス協会の協定を持ったところだけが停めることが出来る場所があります。昔は5番というバス停があって、自由に出入りができるというところが1つのメリットでした。そこを旅行会社があっせんしたバスなども使っていたのですが、ここ何年間かで、協定を結んだところだけがその観光バス乗降場を利用する、という形になりました。

川越市としては多くのお客様、観光客を迎えようという体制だとは思いますが、その制約があるがために観光バスの協定を結んでいないバス会社がたくさんありますので、そういう会社がバスをどこに停めるのかということで、旅行会社としてこの2年間、本当に苦勞してきました。実は今、ウエスタの周辺などで一部乗降ができるという形で何とかやっていますが、正直なところ駅から遠いですし、お客様からも以前と違って不便になったね、など、いろいろなお声を聞きます。

基本的にバス協会に入っていないバス会社は協定に入ることが難しい現状があったりします。いろいろなバス会社が都内からも来たりしていますので、先ほど言ったように自由に、フリーでバスの乗降ができる場所というのを1カ所だけでも設けることは物理的に無理なものなのか。実際それが出来なくはないような気がしてしょうがありません。

市長 西口については、先ほどちょっと触れましたが、駅からウエスタへ行くちょうど真ん中辺りのところに空き地があると思うのですけれども、その市有地の利活用を民間の力をお借りしてやろうということで、去年、一度ご提案をいただきました。

しかしながら、去年はうまくいなくて、今、もう一回仕切り直しでやっているところです。そこには、簡単に言えば建物が建って、地上部分には一部バスの発着場のような場所であるとか、駐輪場については、そういうようなものの裏の方につくる、

というような方向性で、いずれにしても、あそこには大きい建物を建ててにぎわいの一環にしていくという方向で物事を進めています。

それで、観光バスの乗降場が協定を結んでいて、その協定の中に入っている会社でないと使えないというのは、私も知らなかったことなのですからけれども、どこかの空き地をバス専用の発着場に仮にしたとしても、市有地を使っていただく場合は、タクシーなども同様ですが、一定程度の使用料をいただくんですよね。使用料をいただくとすると、それを払ってくださる会社しかそこは使えないという、結局そういうことになってしまう可能性は高いですよ。

意見 そういうことですよ。今、協定を結んでいるバス会社が二十何社とあります。お金を払うということで、30分か15分の時間を使えるんですよ。やっぱり、それだけその場所というのは提供できないということなんですね。

市長 その観光バスの発着場というのは、駅の構内ですよ。

意見 駅の構内ではなくて、先ほど言ったのは昔で言ったら駐輪場、あの5番レーンは2年前は少なくとも観光バスが唯一、自由に出入りできる場所でした。

本当は市としてたくさんのお客様、観光客、外国人の方を含めてバスを本当は受け入れたいというお考えでしたらば、やはり駅周辺の乗降できる場所、マナーの問題等もあるとは思いますが、そういった場所の必要性は高いと思うんですね。でも、今はその制約があって、協定を結んでいるバス会社が入ることによって、そこは停められないということで、グレーゾーンと言われるウェスタの前だったら、ぎりぎり乗り降りができるという状況です。果たしてそれがいいのかな、というところも多少ありながらも、今はそういった状況であるので、何とかそういった場所を本当に1カ所とか設けることができないかというのが希望です。

市長 バスの発着場は観光バスに限らず、先ほど出てきた通勤・通学のためのバスについても、一定程度は駅の近くに発着場を確保しようという、そういう考えはあります。実際にそれができるのは、多分数年後になると思うのですけれども、そのときはできる限り多くの観光バスに停めていただけるような、そういう場所にしていきたいというふうに考えます。

意見 ありがとうございます。

《川越駅西口の整備構想》

意見 西口にウェスタが出来たことで動線が変化しており、そのことについて、近隣の飲食店の方たちとお話しすることがございます。そこで、今後の西口の整備について、市長としてはどういうお考えでいらっしゃるのか伺いたいと思います。

人の流れの動線、特に日中のところよりも夜の点でいろいろな話を聞いています。今後の西口の整備について、市長としてどういうお考えでいらっしゃるのかという点をお聞きしたく、ご提言させていただきます。

ウェスタ方面の動線ルートは、今後、夜を含め日中の人通りをどんどん増やしていく、賑やかにしていく、という考えであり、基本的には流れをつくるということです。

市長 そうですね。ですから、今空き地になっている市有地に建物が建ったときには、デッキはあそこまで延ばすと、まずは、そういう考えもあります。

意見 西口前はいろいろと整備されて、すごくきれいになったし通りやすくなっています。交通のマナーの問題はあるにしても、よくなったなと思っているので、ぜひそのまま進めていっていただきたいと思います。ありがとうございます。

《ウェスタ川越の活用》

意見 ウェスタ川越についてです。先日、大きなホールで講習を受けました。非常に新しく良い設備ではありますが、反面、稼働率というのでしょうか、平日は特にちょっと寂しいのかなという気がしました。利用される方々も場所的なものもあるかもしれないですけども、今後の活用方法ですとか施策みたいなものというのは、市長や市の方々はどういうことを考えていらっしゃいますか。

市長 活用はまだまだとおっしゃったのは、ホールについてですか。

意見 も含めて、ウェスタ全体で。

市長 全体ですね。確かに、特に民間部分はもうちょっとウィークデーでも人が来てくれるというふうに思っていたのですが、その予想よりは若干少ないような気がしています。民間の皆さんと工夫しながら、もう少し人が流れてくるような、そういういろんなイベントであるとか、お店とか、そういうのも工夫をしていきたいと思っています。先ほど言った市有地ですとか、もう少し駅に近いところの活用が始まれば、もっともっとウェスタにも人が来てくれるだろうという、そういう予測はしております。

産業観光部長 今のお話について、今まで総合運動公園でやっていた産業フェスタというものを、今年からウェスタ川越を会場としておこないます。また、12月には詳しくはまだ決まっていないのですが、地場産業のイベントを今仕掛けているところです。ウェスタ川越を知らない方も初めてそういう場所を知っていただくという企画になって、今後利用されることを願っています。

市長 平日の入りが若干期待より少ないというのは、それは事実ですね。

《区画整理》

意見 自分は5年前に家を購入したときに、周りに畑などがたくさんあって、自然がいっぱいで、その雰囲気が好きで購入したのですが、やっぱりいろいろな方の都合で農地が売却されていて、家が建ち始めてしまったのが最近ちょっと目立って来て、残念だなとは思っています。

区画の話なんですけれども、旭町とか新宿はおそらく区画整理とかされていて、碁盤の目、ではないですけれども、きれいに整備されています。一方、今、私が住んでいる大塚方面は当然農地ありきのところで、多分それで売却されて家を建てているのだと思いますが、やはり個人の都合で売却されているということもあって乱立しているような感じがあり、区画としては決してきれいな状態ではないと思うんです。

私は区画整理とかそういうのは詳しくはないのですが、いろいろ思惑があって区画整理されて、道路の拡幅工事などもされているのでは、と思います。強制するというのは難しいと思うのですが、川越市を良くしていこうということで、いろいろイメージがあったりとか、こういうふうに道路をつくっていこう、まちをつくっていこう、という話はあると思います。何かそういうイメージを、もしわかったら教えていただきたいなと思います。

市長 大塚のあたりについては、そういう大規模な開発というか、旭町のようにきちんと道路が直線で、碁盤の目のようになっている場所がどうやってできたのかちょっと私はわかりません。通常は民間の業者さんが開発という形で、昔の住宅公団なんかも含めて大規模にやるときは、結構きれいな道路がきちんと入って一定の面積ごとに公園がつくられたり、そういうような形でのまちづくりというのができるんですけれども、例えば1,000平米とか2,000平米ぐらいずつ開発が進んでいくということになると、なかなかそういう計画的な道路であるとかそういうものが通せない、通らない、そういうふうになってしまうのですよね。

行政がここのところにこういう細かい道路を入れてとか、そういうようなことは通常やっていないんですよ。大きな道路に関しては、今でもまだ昔に計画を立てた道路ができないままのところはいっぱいあるのですけれども、そういう面として開発をするというのは行政が今までやってきたのかというと、そういう努力は確かにないんですよ。ですから、今お住まいのあたりについても、そういう予定などは正直言ってございません。

意見 それで不満があるわけではありません。私は元々狭山方面に住んでいまして、入曽のほうとか、駅の周辺とか病院とか行ったりするんですけれども、そこもやはり農地だったところの区画がすごいことになっていて、先ほど道路の話が出ましたけれども、道路も狭くてすごい混みまして、病院に行くのにすごく時間がかかったということがありました。今はどこもそんなに混んでいるわけではないのですが、いずれにしても良くなっていけばいいな、という意見です。

市民部長 長期的に見ると日本全国の人口が減っていくという状況があります。そのような中、今のご意見とは反してしましますが、住んでいる環境は良いのでしょうかけれども、いろいろなサービスなどを考えていくと、野原の一軒家のような住宅は、どうしても効率が悪かったり、サービスの提供が難しくなったりというのがあるので、中心市街地に徐々に皆さんに集まっていただいて、というようなまちづくりに全国が進んでいくのかなというふうに思っています。

いずれにしても、今住んでいるところは住環境がきちんと保たれるように、ということについては、市としても今後、住環境整備ということでやっていく予定がございます。

《農業の継続》

意見 自分は砂久保地域にいまして、駅でいったら新河岸駅が一番近いんです。それで、新河岸駅も再開発が始まりましてロータリーも含むという話があるらしく、少しずつですけれども、道路が広がったりしています。その影響かどうかはわからないんですけれども、自分が仕事をしている地域にも、土地を売ってくれないか、という営業が多いんですよ。ただ、畑がつながっているので、例えば自分のうちの畑を売ってしまうと、周りに日が当たらなくなってしまうという問題も出てきちゃうんですよ。

それと何か関係があるのかといたら無いのかもしれませんが、今、あの地域は農

業の調整区域という形になっていますよね。その中で今後どういうふうに農業を続けていくかというのが、今のところの課題ではないのかなと思います。

《特産物の販売》

意見 将来的に、自分のうちの生乳を使ってアイスクリームを販売したいと考えているんです。それにあたって、例えばですけれども、川越市と提携して売り出すことというのは、可能になったりはするんですかね。

市長 行政と提携してというのは、正直言ってなかなか難しいかもしれませんね。特定の個人の生産物を行政が例えばPRのお手伝いをするとか、それは難しいと思います。

市民部長 旅行会社の行っているグリーンツーリズムのなかで何かかわる、酪農ですとかそういう視点での可能性というのはあるのですか。旅行会社さんとタイアップして、グリーンツーリズムみたいな形でキャンペーンを張っていくような。

意見 実際、グリーンツーリズムは本当に全国的に酪農でも農業でも広がってしまっていて、川越でも体験とかで連携してするものもあるのですが、何かしら、大方は芋掘り体験などをそのツアーの中に組み込んだりとか、川越市の百景をめぐる中で、1カ所で入れたりとかという形の企画をつくったりすることはあります。

今後商品化というのも、こちらから集めるというわけではないですけれども、商品化の1つとしてやっていくことはできなくはないと思います。

市民部長 そのコーディネートを市がちょっと真ん中に立って、調整するというようなことというのは、余地はあるということですよね。

意見 そうですね。今のお話からもアイスクリームにつながることで、これは市と連携して、その中に民間の旅行会社である私どもが入って企画をつくるというのは、ほかの県でも行ったり、市でも行っているところはほかの地域にもあります。行政や民間などが一体になって企画をつくるということはできるので、現実性はあると思います。

市民部長 そういう部分でのお手伝い、行政としてお手伝いというところの可能性はあるという。

意見 可能性としてはあると思います。

板東副市長 直接行政が売るということは、市長が申し上げたように少し難しい。

ただ、例えば本年度なども、川越市内の農産物の直売をやっていらっしゃる方の地

図を全戸配布したりだとか、そういうことでPRをしたりすることはできるのかなと。そのような意味では、同じようなものをつくったりするときに検討できる部分もあるでしょうし、また、ちゃんとというか、場所を移しても例えばイベントなんかに出展できるような場合であれば、そういう機会なども提供するということは、検討の中には1つ入るのかと思います。そのようなレベルでの行政のお手伝いというのはあるかと思っています。

意見 ありがとうございます。

意見 私どもは旅行会社として先ほどお話にもあったように、地域交流にすごく力を入れています。私はメインでは狭山市を担当しておりまして、「川越市」と聞くとひとり立ちをしている市、というイメージが強いのですが、日高市やダイアプランという広域連携を組んで盛り上げていこうとしている飯能市、狭山市、入間市、所沢市などを、川越市が引っ張っていくような形で、もう少し広域で連携をして何かできれば良いのではないかと、というふうに思っています。

例えば先ほどのお話であれば、それぞれ地元の方がつくったものを使ったグルメとかを地元の学生さんが考えて、それを持ち寄るようなイベントをウェスタでやるとか。そうすると恐らくそれぞれの市が単体でやるよりも効果が出て、且ついろいろな市にいろいろな人が興味を持っていただける、且つ地元の学生も地元に興味を持っていただけるのかなと思います。

狭山に関していうと、お茶がかなり有名ではあるのですが、狭山単体で、お茶単体でやると弱い部分があるので、例えば川越市の芋を使ったスイーツにあうお茶を開発しましょう、逆に狭山茶にあうグルメを川越で開発しましょうという、そういう横の展開というか、つながりというのができれば、もっともっと埼玉西地区全体を盛り上げるという面ではいいのかなと思っています。そういう面だと今言ったようなダイアプランだけでやっているとは少し弱いのかなと思ひまして、それを川越市には引っ張っていつてもらいたいというか、連携していつていただきたいと思っています。

市長 広域連携の関係でいうと、川越市もレインボープランといって、川越、川島、鶴ヶ島、坂戸、毛呂、越生、日高、この7つの市町でもう大分前から一緒になってやっています。例えばそこの市民でなくてもよその公共施設を使えるとか、そういうようなことをやっている中で、川越は公設市場を持っているのですけれども、数年前からその市場でそれぞれの市町の物産を売るという、そういうようなこともやっています。

ただ、なかなかそれが発展の方向へ進んでいるのかというと、どちらかというと平行線をたどっているという感じで、今ダイアプラン話の中に日高は出てまいりましたが、まだ正式にはダイアプランには入っていないんですね。埼玉県の西部地域全体という観点からいえば、そのレインボープランとかダイアプランとか限定しないで、例えばその両者が一緒になって今おっしゃったような広域連携で、いろんな産物売り出すとかつくり出すとか、そういうふうなことをやるのもなかなか良い方向性だと思いますので、それはぜひ検討してみたいというふうに思います。

産業観光部長 11月23日に川越市場まつりを開催するというので、今、株主になっていらっしゃる自治体にはお願いし、収入を上げましょう、盛り上げましょうということで動いております。

意見 各市町村に営業していてすごく思うのは、それぞれプライドがすごくあって、もちろんそれは大事なことなのですが、連携しようというよりは負けられないように頑張ろう、対抗しようみたいなところが少しあるように思います。それだとおそらく規模を取り合うのかなと思いますので、そうではなくて、全体で連携して、もっともっと良い方向に持っていければいいのかなと思います。

市民部長 先ほど市長から4市3町で構成されているレインボープランの話がありましたが、そこでバスの観光ツアーみたいなものもやっています。遠山記念館ですとかサイボク、高麗神社などエリアの中にいろいろあって、年に1回しかやらないのですが、かなり応募が来ており、地域資源の発見につながると好評です。そんなことも取り組みとしては行っております。

板東副市長 恐らく旅行会社ですと、DMOの関係とかその辺をにらんでのお話かなとは思いますが、当然行政区域がそれぞれあって、それぞれの中で仕事をしていますけれども、観光客の目線から見たらそういうふうな行政区域って関係ないんですね。その日一日どこへ行くのか。それで、川越も当然、もう少し滞在時間を長くしてもらわなきゃいけないとか、宿泊していただきたいというような課題を、川越の観光についても考えて問題意識を持っていただく。その中では、必ずしも川越の中だけで完結しなくてもいいのかもしれない。例えば飯能などでハイキングをしていただいて、川越で夜御飯を食べて泊まってもらって、翌日半日観光してお帰りになる。そういうようなものだって考えて良いのかもしれないと思っています。

ただ、そこまでまだ具体的なもの、それぞれの費用分担の問題や地域の皆さんのご協力もないとできないので、その辺は課題だと思っていますが、今すぐこう動けます

というところまでは、まだいっていない状況かなと認識しております。

《ものづくりをしている会社》

意見 先ほど川越市はひとり立ちしている市というお話がありました。その背景には恵まれた観光資源もあります。あるいは産業の長い歴史の中で発展した強い会社もございますし、あるいは商店でも魅力を持った商店がたくさんあるということ。それから農業も盛んに行われていると思います。

そういった中で、見られた方も多くいらっしゃると思いますけれども、NHKスペシャル「縮小ニッポンの衝撃」という番組がありました。これは何年も前からこういったテーマで、例えば夕張市が出てきたりとかそういう構成になるのですが、私が川越に住んでいてよかったと思うのは、川越は先ほど言ったとおりの根強い民意を持っている。その中で産業のことについて、商業系ではなく、ものづくりをなさる会社が今どうなんだろう、という視点でございます。

当然のことながらこれは1つの自治体だけの問題ではありません。例えば狭山にある工場が移転してしまい、その受注は川越にある会社が請けていたということがあれば、そういった部分で1つの市だけでは語れない問題かもしれない。そういった産業の部分について、これから構想性を図っていく部分でどのようなビジョンをお持ちなのかというところをお尋ねできればと思います。

市長 大変言いにくいのですが、ビジョンというか当面、産業、特に工業については、できるだけ川越にいろんな工場に来てほしいという、そういう考えはあって、そのような方向での動きをしようと考えているところです。その立地をするための土地について、今は調整区域を転用するのがなかなか厳しく制限されているということもあって、なかなかスムーズにいかない面はあるのですが、例えば芳野台の工業団地などについては、もう少し広げたいという希望を持っており、地元からのご要望をいただいておりますので、そういう方向で検討、協議を進めていくというところなんです。だから、方向性としては、できるだけ多くの工場に来てもらいたいという考えで進めようとしているというところなんです、その程度のことしか言えないというところですね。

ただ、川越は、ご承知かどうか分かりませんが、埼玉県の中で工業生産額が一番なんですよね。それはやはり大きい工業団地が川越狭山、芳野台、それから坂戸市との境には富士見工業団地があって、皆さんが活発に経済活動をやってくれているおかげ

なんですけれども、もう少し増えてもいいのかなという考えでいます。

産業観光部長 つけ加えますと、川越市民の方も市内にどのような企業があるのかよくわからないと思うんです。そこで、来年度運用予定なのですが、商工会議所なども関わって、企業インデックスのようなポータルサイト作りをRE S A S（リーサス）を活用して進めているところです。

板東副市長 関連して私からも少しお話しさせていただきますが、企業支援といった場合に、その販路の開拓の部分というのは、個々の市町村の自治体でも可能であると思っています。ただ、企業はグローバル化していますので、その中でどのような支援をしていけるか。技術開発だとかそういうところについては、当然いろいろな検査機器だとか、そういうものを用意できるかということ、やはり自治体の規模が違うところがあります。もともと国が基本的にやっていたものが、だんだん重厚長大の企業が海外に展開して行って、もともと地元で頑張っていた企業が少しずつ成長してきたところで、現在は県が手を出して支援しているという状況です。市町村の場合、地場産業的なものについての支援というはあるだろうと思うのですが、やはり財政基盤をしっかりとさせるということと地元の雇用をしっかりと持つという点で、先ほど市長が申し上げましたように、企業誘致という視点というのが一番強いのかなと思います。

ですから、ご意見いただいたレベルでの企業支援というのは、川越市であっても少し荷が重い部分はあるのかなとは思っています。ただ、やはり地元での創業というのは、これからの川越市の経済基盤をしっかりとさせるころではありますので、今その辺の検討もしております。先ほど出たウェスタ川越などは市と県の複合施設ですけれども、あそこは創業支援機能も持っているところなので、その辺りで会社を興していただいて、川越で企業活動をしていただければいいなと、そういうようなことは考えているところです。

意見 観光もすばらしいですし、工業もすばらしいですし、そういう今の川越市がこの状況で続いていていただきたいなという、そんな思いでございます。その中では観光の資源もありますし、例えば工業であれば得意分野というんですかね、あるいはその特徴を出していくということが必要かなと思いますので、付け加えます。

《街灯》

意見 ほかのまちと比べると、川越のまちって何か暗いイメージが非常にありまして、それが暗いというのは雰囲気ではなくて街灯が少ないように感じます。私はいろ

いろなところに住んだことがあります。川越に来てみて比べてみるとちょっと暗い感じがします。個人の問題なんですけれども、家の造りも玄関などに電灯がないように感じますし、あとは電柱に照明がないような感じがします。ほかの人はどう感じるかはわかりませんが、私は治安はとても良いと感じているのですが、皆さんはどう感じられているのかなと思います。

市民部長 防犯灯の話ですね。防犯灯は市民部で担当しておりますが、大体今2万2,000から3,000くらいございます。川越市は広いので確かにおっしゃるとおり十分ではないなというのはあります。2年前には全部の防犯灯を蛍光灯からLEDに替えて、電気代も節約できたし明るくなったというのはあることはあるんですけれども。

今は各自治会から要望をいただいて、各自治会で毎年1つずつぐらい増やしていけばいいなと思っているのですけれども、確かに場所によっては間隔が広過ぎて、女の人とか夜道が危ないというようなところもあるかもしれませんので、その辺りは自治会長さんとか相談いただいたりしながら、市でも出来るだけ増やしていきたいというのは思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。ありがとうございます。

《川越シャトル》

意見 生活路線の話です。シャトルバスを便利に使わせていただいております。その本数が今、私の住んでいる南大塚方面を回ってくるのが1時間に1本の場合が多くて、家族などに聞きますと、それでもそこそこ乗ってらっしゃるらしいんですね。もう1本増やして1時間2本でも良いのではないか、という意見を聞いています。

市民部長 シャトルバスは、川越駅の西口から南大塚に行っているものですよね。二十何系統とかと、たしかシャトルバスの中では、本数が今でも多いところで、確かに乗降客の面でも多分ドル箱路線の一つだったというふうに思います。今シャトルバスは路線の見直しで、まさに検討しているところですので、ご要望として今の話はうけたまわりたいと思います。ありがとうございます。

意見 やっぱ、将来にわたって川越市が繁栄していただければというところで、自分が高齢になったときにそういうバスがあると安心だなというところです。

市長 高齢者の方で車も運転しない、あるいは出来ない、かつ川越市内では比較的過疎の地域に住んでいらっしゃるような方のための公共交通として、デマンドシステム交通などの新しい交通を導入しようということで今進めています。目処としては2〜3年のうちに実現しようということで進めています。もともとシャトルバスはどちらか

といえば不採算で、特に路線バスなど通っていないような地域の人のための交通だったんですが、あまりにも赤字が大きいというので路線も大分整理しましたし、本数も乗降客の少ないところは少なくしている傾向にあります。デマンド交通の導入と並行して、シャトルバスについても見直しを進めているところです。

《外国人観光客》

意見 川越市の観光という点で参考程度ですけれども、新聞等では外国人の方を増やしていこうという考えで、観光案内所も広げて外国人向けに案内やスタッフも増やしていくという考えが進んでいます。先ほど市長もおっしゃいましたように、企業としてのグローバル化が進んでおり、それに川越市も取り組んでいこうということだと思いますが、今、外国人の方にいろいろなアンケートをしたときに、アニメというキーワードが結構出てくるんですね。

川越は「神様はじめました」、あのアニメがやっぱりすごく定着して、僕もまだ詳しく調べてないのですが、アニメの聖地巡礼のようなもので、12月から1月ぐらいに投票して順番をつけましょうということで、どのアニメも僕らが知っているような最近のアニメについてを全部投票するそうなんです。それには角川さんなど民間と主に国が絡んでいると聞いてはいるんですが。

そういうところで多分川越も、そういったコンテンツとしてアニメの人気があるので、そのような中に入っているとしたら、もっと人がたくさん来るのではないかな。フィルム・コミッションなど取り扱いが増えているとお聞きしたので、このアニメのキーワードに川越ももっと力を入れても面白いのではないかと思います。ときもとか、そういったものも人気を博しましたが、ゆるキャラ、次の部分にアニメ、それが国内ではなくて海外に対しても今が仕掛けるタイミングではないか、何かそういうのをやってみないかな、と考えているのですが、市としても何かそういうふうな考えなどがあるいろいろなあれば、新しい提案などができるのかなと思っています。

市長 ありがとうございます。

意見 インバウンド（訪日外国人旅行）の面では、やはり海外から来る方というのは日本らしいものをすごく好むので、海外に行って海外の方に聞くと、富士山とか雪、忍者、サムライとかですね。そういうのが東京の近くで味わえるのは、もちろん浅草とかはあるのですが、川越はすごく近くだと思うので、海外から来た人からすると東京から川越はすごく近い距離なので、そういう面では川越に来て着物を着せ

て。

あとは出来る、出来ないは別ですけども、例えば入間川で屋形船みたいなのを流して、それに乗ってもらって、狭山でお茶摘みをして、入間のアウトレットで買い物をして帰ってもらうとか、そうするとお金が全体的に落ちておもしろいのかなと思うんです。

出来る、出来ないは別にして、インバウンドというのは2020年に向けて特別に取り組んでいかなければならないと我々旅行会社も思っているところです。そこで、行政がもっと力を入れていただけるといいのかなと思っています。

市民部長 日本らしさというあたりをテーマに。

意見 そうですね。先ほど出たお茶摘み体験などというのは、東京からだが一番近くでできると思うんですね。わざわざ静岡まで行っている海外の方もいらっしゃるんですけども、今狭山のお茶屋さんに聞くと、インバウンドのお客さんでお茶を摘みたいという問い合わせが増えているそうです。こういった体験でなくても良いと思いますが、日本らしい法被とか着物とかを川越で着てもらって、そこをスタートにしてツアーを始めるとか、そういった計画に翻訳アプリとか地図を用意できれば、それがどんどんSNSやYouTube等で広まっていき、どんどん話題を呼んで、海外の人で東京に来た人がちょっと足を延ばして川越に来るというのができて、すごく面白いのではないかと思います。

市民部長 それなんかは、やっぱりグリーンツーリズムみたいな要素とか。

意見 お茶もあれば。あとは農業体験とかも面白いと思います。

市民部長 そうすると、後はそちら等で連携をしていただいてというか、そのコーディネート由市がやるという。

意見 東京から近くでできるというのがすごくポイントだと思います。インバウンド観光におけるゴールデンルートは東京から始まって、大阪へ行って、というのがありますが、海外から来た人はそれぐらいの距離は何でもない距離です。大阪、京都、東京、それぐらいの距離は移動するので、それに比べれば東京から川越というのはすごく近いので、来てくれるのかなとは思いますが。

市長 今、川越ではレンタル着物がすごく流行っているんですね。特に外国の人、中国とか東南アジアの人が中心なのでしょうけれども、随分レンタル屋さんが増えました。最初2軒ぐらいしかなかったのが、今は5軒あるという話なんですよ。

それと、今おっしゃった方向性でいえば、6年ぐらい前にある企業から、例えば神

前結婚を氷川神社か何かで体験させるとか、すしを握る体験をさせるとか、そういうようなことを観光に組み入れようとしているという話を聞いたのですけれども、その後、何かそれが立ち消えになってしまったみたいなんですよね。うまくいかなかったのか、何か方針が変わってやめてしまったのかわからないのですけれども、そういうのもなかなか外国人向けとしては良いと思っています。しかしながら、なかなか行政がそれをやるわけにはいかないのですよね。

意見 川越というと、どうしてもお芋のイメージで、もちろんお芋も素晴らしいと思いますし、それは良いのですけれども、もっと何か違うイメージにならないかな、というふうには市民として前から思っていました。

市長 川越ブランドの農産物、あるいは工業製品でも良いですが、これは川越が一番だというような、そういうようなものができれば良いなと思っています。

市長 本日は、本当にいろいろ貴重なご意見をお聞かせいただきまして、ありがとうございます。これからもぜひいろいろな思いを市に伝えていただけたらと考えております。すぐに実現できるもの、あるいは取り入れられるもの、そうでないものとございますので、意見を言っても何だよ、という、そういうことになってしまうかもしれませんが、市民の皆さんからいろいろなご意見をいただきながら進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。（拍手）